

大野城(県指定史跡, 続百名城)(大野市城町)

大野城（おおのじょう）は福井県大野市にあった日本の城。明治までは大野藩の藩庁が置かれた。天守は昭和に建てられたもの。

概要

1575 年（天正 3 年）、織田信長より越前一向一揆を平定した恩賞として越前国大野郡の内の 3 万石を与えられた金森長近がその翌年、最初に居城とした戌山城の近くの亀山（大野盆地の小孤峰）に城郭を築いたのが越前大野城の始まりである。築城に数年間を要した。その後、越前松平家が 3 代続いた後天領となり、土井氏で定着するまで目まぐるしく城主が替わった。城は 1775 年（安永 4 年）に焼失し、1795 年（寛政 7 年）には天守を除いて再建されたが、明治維新後に破却されている。

2014 年に有志による「ラピュタの会」が結成され、「天空の城 大野城」の知名度向上に努めている。

遺構

山頂の石垣および堀が現存し、山麓部にも内堀および外堀の一部が残る。建造物としては、不明門が市内中丁真乗寺山門として、櫓門であった鳩門の門部分が光明寺山門として、それぞれ移築され現存する。また、8 代利忠の隠居所が柳廼社社務所として移築現存する。

天守

天守は、亀山の山頂にある天守曲輪に建てられた。本来は望楼付きの 2 重 3 階の大天守に 2 重 2 階の小天守、天狗の間（天狗書院）と呼ばれた付櫓（天狗櫓）が付属された、複合連結式の天守であったが、1795 年に焼失して以降、再建されないままであった。

復興天守

現在山頂に建つ天守は、1968 年（昭和 43 年）に元士族の萩原貞の寄付金を元に、往時の絵図や創建当時の同時期の他の城の天守を元に、鉄筋コンクリート構造によって推定再建されたものである。しかし、小天守が天狗の間の位置に建てられていることなど、史実に基づいた復元再建ではない。復興天守の内部は、金森氏や土井氏など歴代の城主に関する資料を展示した資料館として利用されている。12 月から翌年 3 月までは閉館となっている。

Wikipedia による



復興天守



越前大野城 遠望

越前大野城鳥瞰図

寛延2年の繪圖による(1749)

